

# 二級河川佐野川水系 河川整備計画（変更原案）について

1. 流域の概要、特性
2. 河川の特性
3. 流域の将来像
4. 河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」
5. 河川の維持の目的、種類、施工の場所
6. その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

# 1.流域の概要（本文P1）

Ⅰ 佐野川水系は、泉南郡熊取町久保付近に源を発する住吉川と和泉山脈に連なる雨山（標高312m）付近に源を発する雨山川が、それぞれ熊取町内を北西方向へ流下し、JR阪和線下流の泉佐野市と熊取町との市町境付近で合流して佐野川となり、泉佐野市の市街地を北西方向に流下して大阪湾に注ぐ流域面積10.53km<sup>2</sup>、流路延長約16.1km（うち指定区間は9.2km）の二級水系です。

Ⅱ なお、住吉川については大阪府管理区間は万福橋まででしたが、住吉川上流の大規模な宅地開発に伴い、熊取防災調節池を設置したことから、平成17年3月には防災調節池下流まで二級河川区間を延伸しました。

## 河川延長(管理区間)

水系名	河川名	二級河川 法定区間延長
佐野川	佐野川	3.0 km
	住吉川	4.8 km
	雨山川	1.4 km



佐野川水系位置図



佐野川水系流域図

# 1.流域の特性（本文P2～3）

〈自然環境特性〉

## ○植生

佐野川では水際にはミゾソバ、ジュズダマなどが、河岸にはマダケなどの樹木が、河原上にはキシウスズメノヒエやセイタカアワダチソウなどの外来種が見られます。

住吉川下流では、佐野川と比較して植生がほとんどなくなり、護岸上にカナムグラや水際にジュズダマが見られる程度です。上流では、河岸にダンチク、マダケ、アラカシなどの高木が見られ、水際にはジュズダマが見られます。

雨山川では、河岸にセンダン、ダンチクなどの高木が見られ、水際にはミゾソバ、ジュズダマ、河原上はキシウスズメノヒエなどが見られます。

佐野川水系全体を通して、外来種が多く見られます。

## ○魚類

佐野川の感潮区間である住吉橋周辺では、6科9種の魚類が確認されています。ボラ、マハゼなどの汽水魚、モツゴや外来種であるブルーギルなどの淡水魚、回遊魚であるウナギ、カワアナゴなどの貴重な種も見られます。

住吉川の淡水区間では5科8種、雨山川では5科9種の魚類が確認されています。

「大阪府における保護上重要な野生生物目録（大阪府RDB）」で絶滅危惧Ⅱ類に分類されている「ドジョウ」や「メダカ」、要注目種である「タモロコ」なども見られます。その他にも、コイ、ギンブナ、カワムツ、カワヨシノボリなどが生息しています。

# 1.流域の特性（本文P5～6）

## 〈社会環境特性〉

住吉川沿いには古くからの蔵や屋敷垣塀をもつ農家等の住宅が立地しており、地域の歴史を感じる景観が形成されています。

住吉川沿いに建設されている熊取交流センター煉瓦館は、昭和初期に綿布工場として建設された建物でしたが、近代化遺産として後世へ継承するべく、生涯学習、芸術文化活動や歴史体験学習、軽スポーツなどの活動に利用できる施設として熊取町によって保存整備されました。



## 2.河川の特性（本文P7～9）

- Ⅰ 佐野川水系の河川は、著しく蛇行しているのが特徴です。
- Ⅰ 住吉川下流の佐野川合流点～熊取駅前などの整備済み区間については、蛇曲部が緩和され、直線に近い形状で改修されています。
- Ⅰ 大きく、①佐野川、②雨山川、③住吉川下流、④住吉川上流の4つに分けられます。



佐野川水系河川の現状（全体図）

## 2.河川特性（本文P7～9）

### 佐野川水系河川の現状（佐野川）



佐野川は、河口から雨山川合流点付近までの約3.0kmの範囲。

河床勾配は1/350～1/200

川幅は約20～30m

河床材料は砂～砂礫。

ブロック積護岸等で整備され、瀬や淵、河畔林が形成されている。

昭平橋～国道26号の区間は築堤と掘込が混在し、その他はほとんどが掘込。

この区間は、泉佐野市の市街地を流れており、市街地内のオープンスペースとなっている。

雨山川は、佐野川合流点から豊穰橋（二級河川区間上流端）までの約1.4kmの範囲。

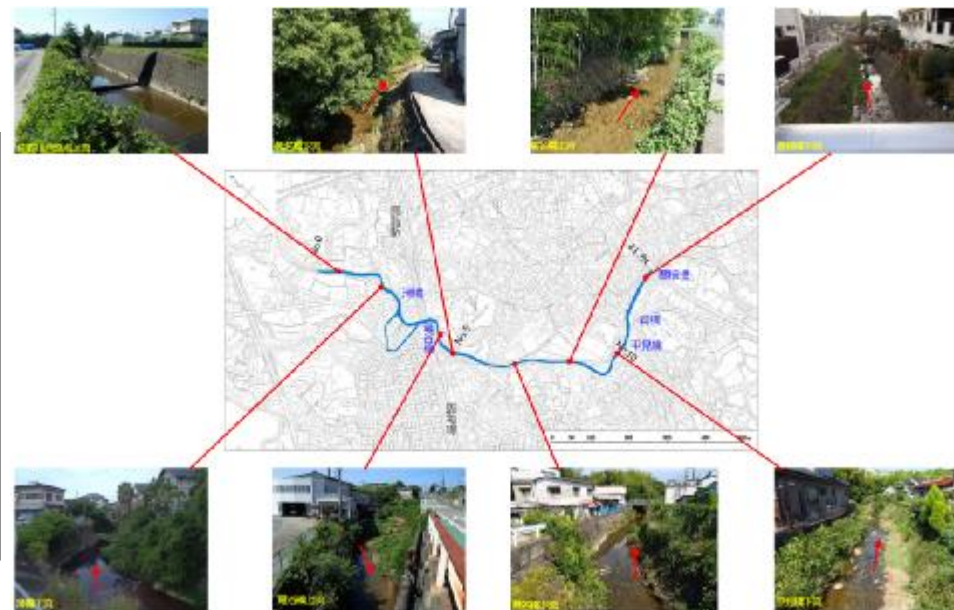
河床勾配は1/250～1/80 川幅は約10～20m

河床材料は砂～砂礫。

ブロック積護岸等で整備され、瀬や淵、河畔林が形成されている。

この区間は、熊取町の市街地を流れており、市街地内のオープンスペースとなっている。

### 佐野川水系河川の現状（雨山川）



## 2.河川の特性（本文P7～9）

### 佐野川水系河川の現状（住吉川下流）



住吉川下流は、佐野川合流点から桐方橋上流までの約2.4kmの範囲。

河床勾配は1/150～1/80 川幅は約5～15m  
河床材料は砂～砂礫。ブロック積護岸等で整備されている。

熊取町の市街地を流れており、特に万福橋～桐方橋までの区間では、河川に隣接して、葺や屋敷囲塀のある住家や綿布工場跡である熊取交流センター煉瓦館などの歴史的な建物が建っており、地域の歴史が感じられる河川景観となっている。

住吉川上流は、桐方橋上流から防災調節池までの約2.4kmの範囲。

河床勾配は1/100～1/50

川幅は約5～10m 河床材料は砂～砂礫。  
ブロック積護岸等で整備されているが、一部で自然河岸も残る。

田園地帯を流れている小河川。



### 佐野川水系河川の現状（住吉川上流）

### 3.流域の将来像（本文P13）

#### 〈大阪府、泉佐野市、熊取町の将来像〉

##### Ⅰ 大阪府21世紀ビジョン

豊かな**自然環境の保全**

河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

ゲリラ豪雨対策をはじめとする総合的治水対策

##### Ⅰ 大阪府の土地利用計画

**自然環境の保全**、水質の改善

地域や流域の特性に応じた適切な維持管理、改修、整備を行う

府民が集い憩うことができる親水空間の創出

##### Ⅰ 大阪府の新環境総合計画

「みどりの風を感じる大阪」

広域的なみどりのネットワーク

河川では持続的かつ多様な河川環境の創出、緑化、景観形成

##### Ⅰ 泉佐野市の総合計画、都市計画マスタープラン

**河川・ため池の総合的な整備**

親水機能や景観に配慮した魅力ある水辺環境の整備

##### Ⅰ 熊取町の総合計画、都市計画マスタープラン

**防災面を重視した河川整備**

計画的な用排水路やため池等の整備・改修

**地域の歴史・文化等の特性に配慮した親水空間の整備**

以上のことから、**河川整備では防災面を重視した河川・ため池の総合的な治水対策及び自然環境の保全、地域の歴史・文化、景観に配慮した親水空間の整備が求められています。**



## 4.河川整備計画の目標（本文P14）

### 第4節 河川整備計画の目標

#### 1. 洪水、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

##### (1)洪水対策

大阪府では、将来目標として「一生に一度経験するような大雨（時間雨量80ミリ程度4）の降雨）が降った場合でも、川があふれて、家が流され、人が亡くなるようなことをなくす」こととしています。

その上で、「今後の治水対策の進め方」（平成22年6月策定）に基づき、「人命を守ることを最優先とする」ことを基本理念に、「逃げる」、「凌ぐ」、「防ぐ」施策による総合的な減災対策に取り組んでいます。具体的には、大阪府域での今後20～30年程度で目指すべき当面の治水目標を河川毎に設定し、大阪府全域で時間雨量50ミリ程度の降雨に対して床下浸水を防ぎ得るような河川整備を進めることを基本とします。

その上で、時間雨量65ミリ程度および時間雨量80ミリ程度の降雨で床上浸水以上の被害の恐れがある場合には、事業効率等を考慮して、少なくとも時間雨量65ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを整備目標とします。

## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」 (本文P10~11、P14~15、P17~23)

	現状	課題	目標	実施	備考
河道	<p>○時間雨量80ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成している区間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野川 河口～昭平橋</li> <li>・住吉川 佐野川合流点～向田橋</li> </ul>	<p>程度50ミリ程度の降雨を安全に流下させることができない区間が残る</p>	<p>時間雨量65ミリ程度の降雨を安全に流下させる または 床上浸水以上の被害を防ぐ</p>	<p>河道改修 整備対象延長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○佐野川 0.70km</li> <li>○住吉川 2.35km</li> <li>○雨山川 0.41km</li> </ul>	
貯留施設	<p>○時間雨量50ミリ程度の降雨を安全に流下させることができる河川整備が完成もしくは現況断面で流下能力がある区間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野川 昭平橋～国道26号</li> <li>・佐野川 中庄橋上流</li> <li>・佐野川合流点～JR阪和線下流</li> </ul> <p>○時間雨量50ミリ程度の降雨を安全に流下させる整備を進めている区間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐野川 国道26号～中庄橋</li> </ul>	<p>歴史的な建造物があるため、河道拡幅による影響を考慮し整備する必要がある</p>	<p>河道改修と貯留施設の整備を組み合わせた対策</p>	<p>貯留施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住吉川 洪水調節流量 約15m<sup>3</sup>/s</li> <li>○雨山川 洪水調節流量 約10m<sup>3</sup>/s</li> </ul>	
津波地震	<p>河口から昭平橋までの区間は、高潮対策事業によって伊勢湾台風級の超大型台風の通過による高潮にも対応できる防潮堤が完成している</p>	<p>東南海・南海地震等の海溝型地震に伴う津波に対する安全性が確保されていない</p>	<p>河口部の護岸・堤防の地震 ・津波対策は、海溝型のL2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しないことを目標とする</p>	<p>L2地震動による堤防の沈下等を考慮したうえで、L1津波が越流しない耐震対策を実施する</p> <p>減災効果が発現できるように粘り強い構造とする</p>	

## 4.河川整備計画の目標（本文P15～16）

### 第4節 河川整備計画の目標

#### 3. 河川環境の整備と保全に関する目標

大阪府では、河川環境の目標として、河川及びその流域の現状を十分認識し、自然環境、地域特性、景観、水辺空間などの様々な観点から治水・利水との整合を図ることはもとより、関係機関や地域住民との連携を図った整備と保全に努めます。

第一に、河川工事実施に際しては、河川全体の自然の営みを視野に入れたうえで、「河岸やみお筋の保全」「上下流の生物移動の連続性確保」、「周囲の景観との調和」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくり（※）を取り入れ、それぞれの河川が本来有している生物の生息・生育環境の保全・再生に努めます。

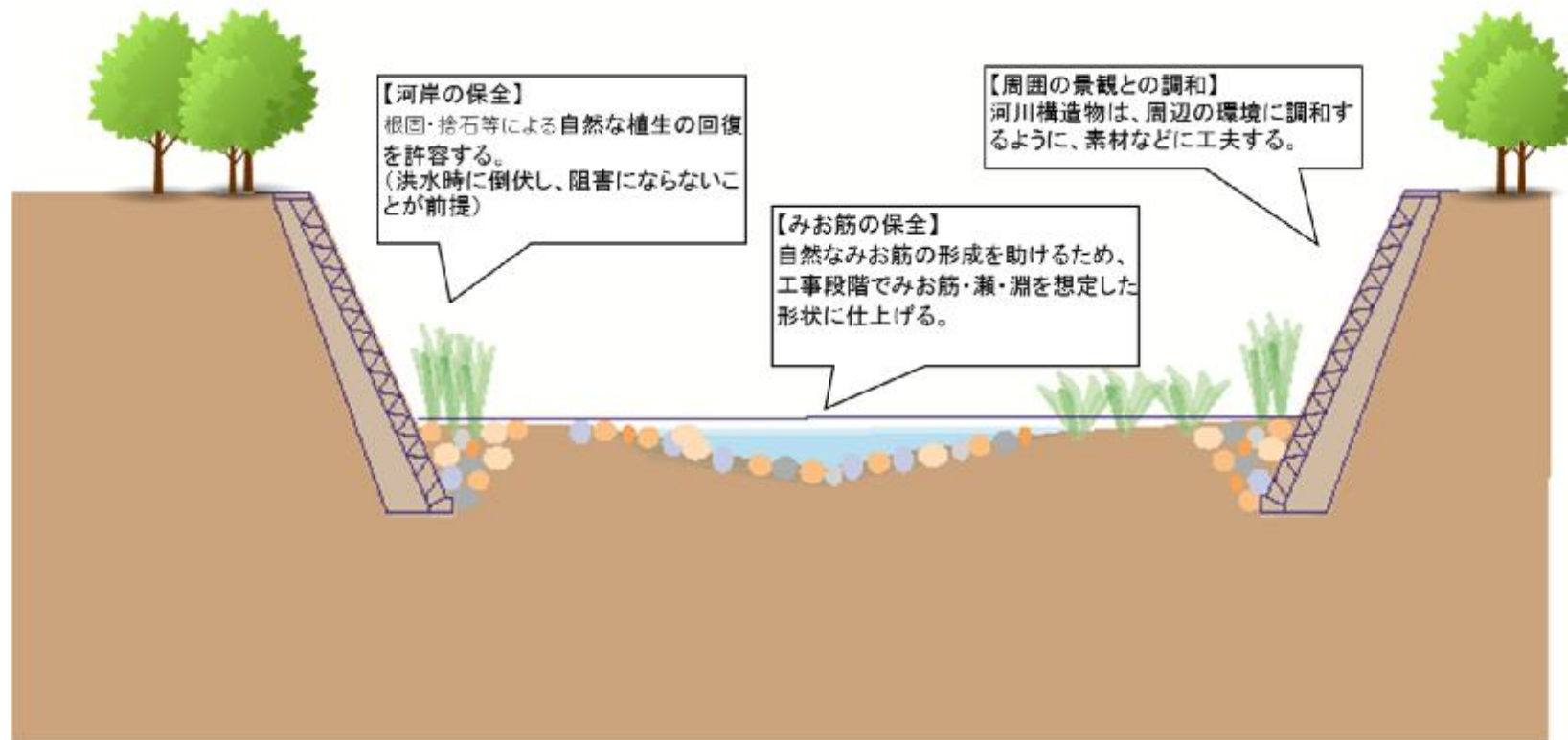
第二に、河川に親しみ、ふれあい活動の場にするため、関係機関や地域住民と連携し、散策路や川に近づくための階段等の整備を図るなど、川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成に努めます。

第三に、豊かな河川環境は重要な地域資源であり、良好な景観を維持・形成するため、景観に配慮した材料を採用するなど、周辺環境との調和に努めます。また、関係機関や地域住民と連携し、地域住民が愛着を持てる空間づくりに努めます。特に、都心部においては、民間企業等の連携により、都市のシンボルとしての質の高い利用の促進に努めます。

第四に、水質について、下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善に努めます。また河川で活動している地域住民やNPO等との連携し、河川美化、環境教育などに努めます。

※河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいう。  
（「多自然川づくり基本指針」（2006年10月、国土交通省）より）

## 4.河川整備計画の目標（本文P15～16）



多自然川づくりイメージ図

## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」(本文P24)

前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項

### 【景観・親水空間】

- 景観への配慮では護岸を石積みにするだけでなく、**街並みとの連続性**などにも踏み込んで検討すべき
- 住吉川では河床掘削をするため**水面までの距離が遠くなる**可能性がある。対策に検討を加えたらどうか
- 住吉川ではホタルの保全をしているNPO団体などが活動しているので、そのような**団体や地元住民の意向を踏まえた空間整備**を検討されたい



河川整備の実施に関する事項

河川環境の整備と保全

蔵が残る住家や煉瓦館などの**歴史・文化施設などに隣接する区間は、周囲の景観に配慮**した護岸材料の選定などの工夫をし、河川と周囲が一体となって、地域の歴史、文化を感じられる景観が形成されるような整備を行います。

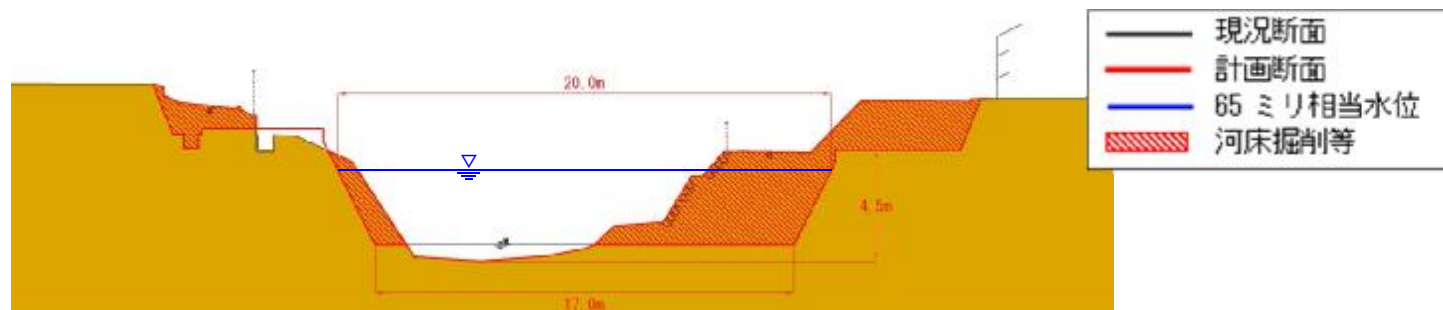
また、**多くの人**が利用する熊取交流センター煉瓦館周辺では、**貯留施設の整備に合わせて、水辺に触れ合えるような親水空間の整備**を行います。整備を行うにあたっては、**熊取町、地域住民と連携して整備内容を検討**していきます。

## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」【佐野川】（本文P19）

河川名	整備対象区間	整備内容
佐野川	国道26号～中庄橋 (1.8k付近～2.5k付近)	<p>河道改修（拡幅・掘削等による断面拡大）により、治水機能の向上を図ります。</p> <p>河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。</p>



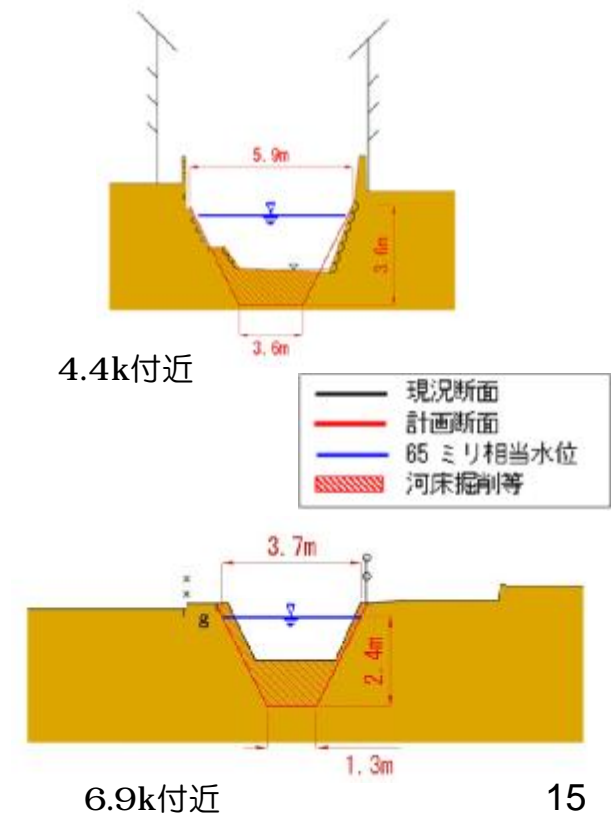
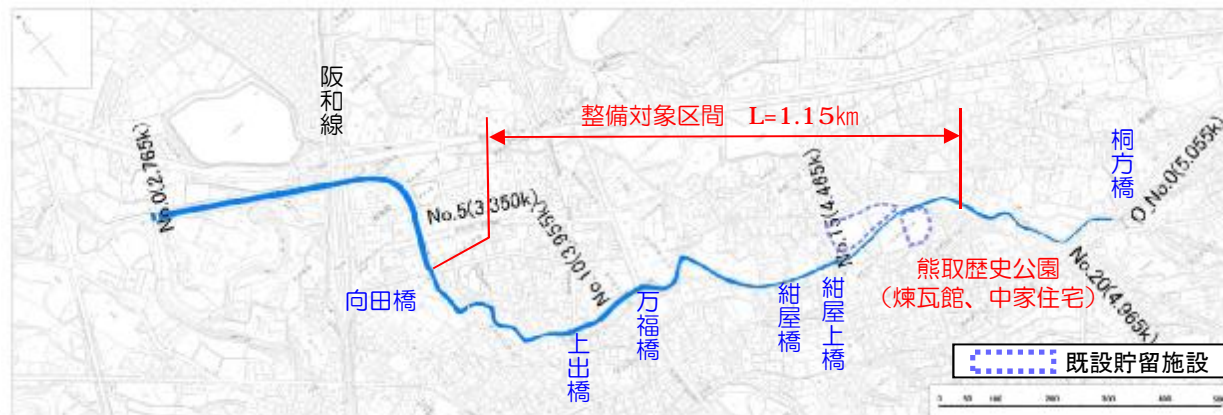
整備対象区間平面図（国道26号～中庄橋）



整備断面例（2.0km付近 山出橋0.2km上流）

# 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」【住吉川】（本文P20～21）

河川名	整備対象区間	整備内容
住吉川	向田橋～桐方橋下流 (3.4k付近～4.6k付近)	<p>河道改修（掘削等による断面拡大）と貯留施設の整備を組み合わせ、治水機能の向上を図ります。</p> <p>河道改修の際には、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。護岸整備では、蔵が残る住家や煉瓦館などの<b>歴史・文化施設などに隣接する区間</b>において、<b>周辺の景観に配慮した護岸材料の選定</b>などの工夫をします。煉瓦館に隣接する区間では、<b>親水性、周囲の景観との調和に配慮した整備</b>を行います。</p>
	桐方橋上流～防災調節池 (5.4k付近～6.0k付近、 6.8k付近～7.4k付近)	<p>河道改修（掘削等による断面拡大）と貯留施設の整備を組み合わせ、治水機能の向上を図ります。河道改修の際には、<b>周囲の景観との調和に配慮し</b>、上下流の<b>連続性の確保</b>に努めます。</p>

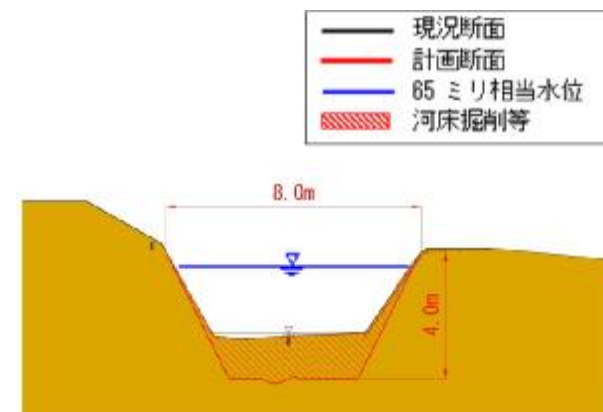


## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」【雨山川】（本文P22）

河川名	整備対象区間	整備内容
雨山川	JR阪和線～無名橋下流 (3.3k付近～3.7k付近)	河道改修（掘削等による断面拡大）と貯留施設の整備を組み合わせて治水機能の向上を図ります。河道改修の際には、河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努めます。



整備対象区間平面図（JR阪和線～無名橋下流）



整備断面例  
(3.5km付近 JR阪和線0.2km上流)



## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」(本文P16・23)

前回の環境面、景観面の審議会時の委員指摘事項

### 【河川環境への配慮】

- 整備区間だけではなく、**全区間を通じて景観や自然環境(植生)に配慮するべき**
- **河道の連続性に関して、横断構造物の維持補修や築造時に工夫すべき。対象とする生物を十分に検討するべき**



河川整備の実施に関する事項      河川環境の整備と保全

佐野川水系では、**流域が持つ歴史・文化・景観や自然環境に配慮し、住民や関係機関と連携し各河川の特色を活かした河川整備、維持管理を行います。**

農業用の井堰や落差工等の河川横断構造物の利用実態の把握に努め、利用実態のない井堰の撤去や落差工の改善と合わせて水域の連続性の確保に努めます。整備にあたっては、水生生物の生息・生育状況の調査を実施します。**整備や補修を実施する際には、自然環境や景観に配慮し、適切な対策を行います。**

## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」 (本文P11~12、P15~16、P23)

	現状	課題	目標	実施	備考
水質	佐野川環境基準E類型最近の3カ年ではいずれの河川でもD類型の環境基準(BOD8mg/l以下)を下回るようになり、コイやフナの生息に適するとされるC類型の環境基準(BOD5mg/l以下)に近づいてきた	魚類生息や親水性の向上の観点から見ると、目標水質の見直しも視野に、さらなる改善が必要	下水道等の関係機関や、地域住民と連携し、より一層の改善に努める。また河川で活動している地域住民やNPO等との連携し、河川美化、環境教育などに努める	泉佐野市や熊取町による行政指導や下水道整備・接続の促進による水質改善とともに、関係機関や地域住民、学校、NPO等と連携し、生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境学習、啓発活動等を進めることにより、水質改善に努める	
水利用	佐野川4件、住吉川4件、雨山川2件の計10件のかんがい用の水利権がある これまでに大きな渇水は生じていない	今後も適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める必要がある	今後とも、適正かつ効率的な水利用が図られるよう努める	流水の正常な機能を維持し適正な河川管理を行うため、継続的な雨量、水位の観測データの蓄積と分析による水量の状況把握を行う	
空間利用	アドプト・リバー、各NPO法人などより、美化清掃を中心とした活動が行われている	河道内へのアクセスを改善する必要がある	河道内へのアクセスの改善を図るよう努める	地域住民の河川周辺の利活用が活発な区間では、河道内へのアクセスポイントの確保など親水性の向上に努める	

## 4.河川整備の「現状と課題」・「目標」・「実施」 (本文P12~13、P15~16、P23~24)

	現状	課題	目標	実施	備考
連続性の確保	井堰や落差工など河床を横断する施設が約30基設置 いずれの施設にも、魚道は設置されていない	水生生物の移動の観点から見た場合、縦断的に不連続であり、移動の妨げとなるため改善が必要	「上下流の生物移動の連続性確保」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れる	利用実態のない井堰の撤去や落差工の改善と合わせて水域の連続性の確保に努める また整備にあたっては、水生生物の生息・生育状況の調査を実施し、自然環境や景観に配慮し、適切な対策を行う	
自然環境	佐野川、雨山川は瀬や淵、河原、河畔林などの河川特有の自然環境が残る	河道改修の際には、それらの保全、再生に配慮した整備が必要	「河岸やみお筋の保全」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れる	河床掘削時の平坦化を避け、瀬や淵の形成に配慮するなど、可能な限り自然環境の保全を図り、動植物の生息・生育環境の保全・再生に努める。	
景観・親水性	蔵が残る住家や煉瓦館などの歴史・文化施設などがあり河川と一体となった景観を形成している  河道内へのアクセスはほとんどなく、煉瓦館に隣接する区間では、河川は暗渠化されており、水面が見えない	親水性の向上と、地域の歴史、文化と調和した景観形成に配慮した整備が必要	「周囲の景観との調和」など河川毎の特性に応じ、多自然川づくりを取り入れる  多くの人が利用する熊取交流センター煉瓦館周辺では市街地における貴重な水辺環境として、地域住民の憩いの場となるような親水空間の整備に努める	周囲の景観に配慮した護岸材料の選定などを工夫し、河川と周囲が一体となって、地域の歴史、文化を感じられる景観が形成されるような整備を行う  貯留施設の整備に合わせて、水辺に触れ合えるような親水空間の整備を行う 整備を行うにあたっては、熊取町、地域住民と連携して整備内容を検討していく	

## 5.河川の維持の目的、種類及び施工の場所（本文P24～25）

河川の維持管理は、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する治水・利水・環境などの多面的機能を十分に発揮させるよう適切に行います。

### ■河川管理施設

- Ⅰ 施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握
- Ⅰ 人命を守ることを最優先に、危険度の高い箇所から計画的に補修
- Ⅰ 点検結果を公表
- Ⅰ 土砂の堆積、植生の繁茂に対しては、堆積・繁茂状況を定期的に調査
- Ⅰ 計画的に撤去
- Ⅰ 流域及び河道特性を踏まえた河床低下対策
- Ⅰ 被災した際には、二次災害を防止するため応急的な対策を行い、出水後速やかに機能復旧
- Ⅰ 情報を整理・蓄積し、河川カルテを作成するとともに維持管理計画を策定

### ■許可工作物

- Ⅰ 適正な維持管理を指導

### ■河川空間の管理

- Ⅰ 河川美化活動や環境学習の促進
- Ⅰ 定期的に河川パトロールを行う
- Ⅰ 地域や関係機関との連携により、監視体制を重層化
- Ⅰ 地域住民、関係機関と協働で定期的な河川美化活動
- Ⅰ 地域住民等の美化意識の向上

## 6.その他河川整備を総合的に行うために必要な事項（本文P26）

### 地域や関係機関との連携

- 流出抑制に積極的に取り組み
  - ┆治水へのため池の活用手法を検討
  - ┆調整池等の流出抑制施設を恒久的に存続させる施策を推進
  - ┆水源涵養・保水機能維持のための農地・森林の保全
  - ┆家屋の耐水化や望ましい土地利用を誘導する等の制度検討
  - ┆各戸貯留施設の設置により流出量を低減させるなどの意識を向上させる啓発活動
- 様々な情報提供を行う
- 河川愛護活動などの取組みを積極的に支援

### 河川情報の提供に関する事項

- 河川氾濫や浸水に対して
  - ┆現状の河川氾濫・浸水による危険性の周知
  - ┆必要な情報の提供・伝達
  - ┆住民の防災意識の醸成
  - ┆地域特性に応じた情報の双方向伝達システムの構築
  - ┆ホームページ、地上波デジタル放送等での情報提供

# 二級河川佐野川水系 河川整備基本方針（変更原案）について

# 河川整備基本方針

(河川整備基本方針)

**第十六条** 河川管理者は、その管理する河川について、計画高水流量その他当該河川の河川工事及び河川の維持(次条において「河川の整備」という。)についての基本となるべき方針に関する事項(以下「河川整備基本方針」という。)を定めておかなければならない。

<記載内容>

1.河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

- (1)流域及び河川の概要
- (2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針
  - ・災害の発生の防止又は軽減
  - ・河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持
  - ・河川環境の整備と保全

整備計画詳細記載

2.河川の整備の基本となるべき事項

- (1)基本高水及びその河道と洪水調節施設への配分に関する事項
- (2)主要な地点における計画高水流量に関する事項
- (3)主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる川幅に関する事項
- (4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

基本方針にのみ記載

整備計画  
詳細記載

(河川整備計画)

**第十六条の二** 河川管理者は、河川整備基本方針に沿って計画的に河川の整備を実施すべき区間について、当該河川の整備に関する計画(以下「河川整備計画」という。)を定めておかなければならない。

## 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項（本文P9）

### ○現行（平成12年12月策定）

基本高水は、100年に1度程度発生する規模の降雨（1時間あたり79.3ミリ）で発生する洪水を対象とし、そのピーク流量を基準地点「昭平橋」において200 m<sup>3</sup>/sとし、この全量を河道に配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表（単位：m<sup>3</sup>/S）

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
佐野川	昭平橋	200	—	200

### ○変更案

基本高水は、100年に1度程度発生する規模の降雨（1時間あたり79.3ミリ）で発生する洪水を対象とし、そのピーク流量を基準地点「昭平橋」において200 m<sup>3</sup>/sとします。このうち、20m<sup>3</sup>/sを流域内の洪水調節施設で調節し、河道への配分流量を180m<sup>3</sup>/sとします。

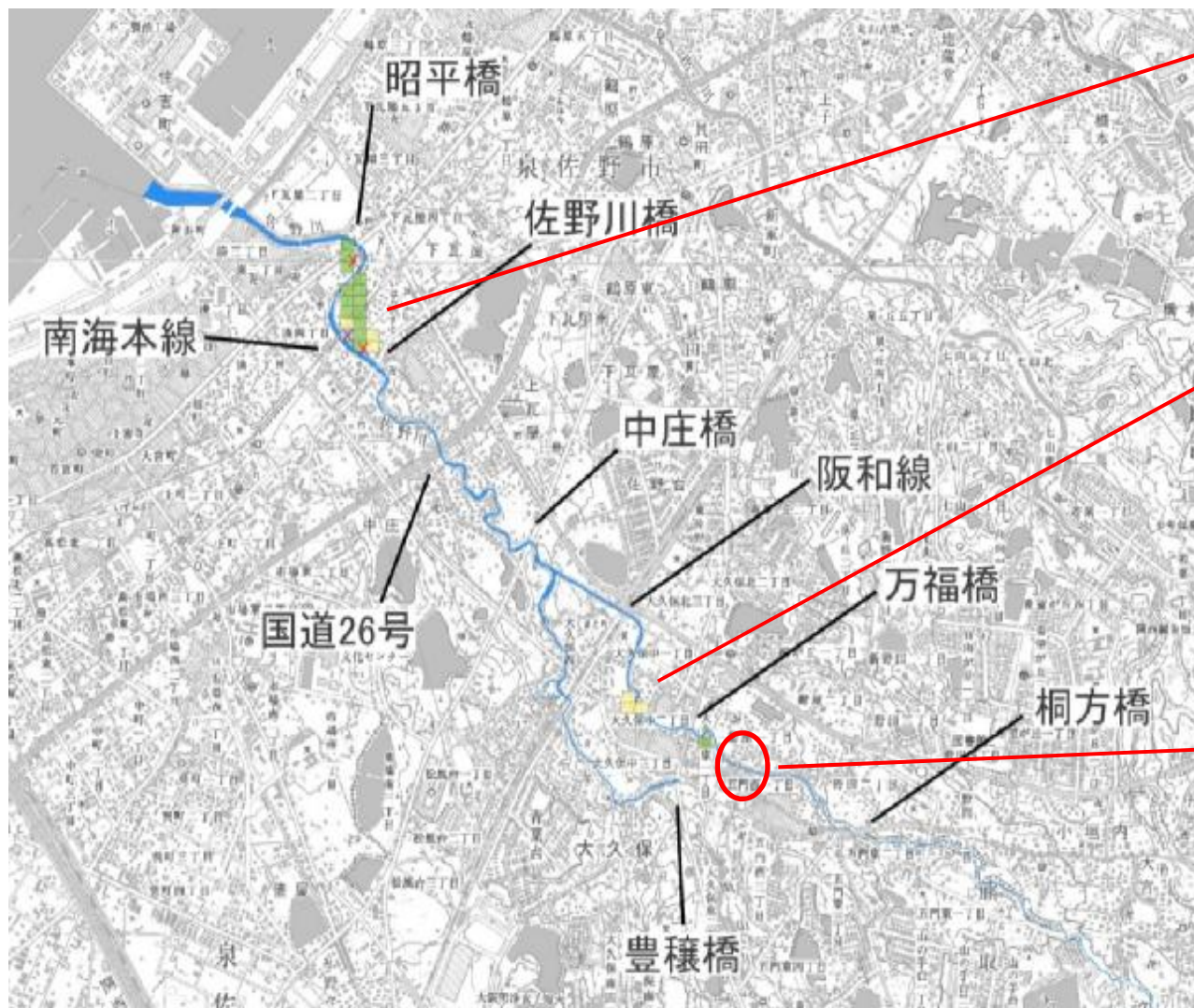
基本高水のピーク流量等一覧表（単位：m<sup>3</sup>/S）

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
佐野川	昭平橋	200	20	180



# 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

## 50mm対策（貯留施設＋河道改修）での氾濫解析結果



危険度Ⅱ発生  
河道改修で対応

局部改修で対応

歴史的景観

凡例(浸水深)	
0.0m ~ 0.5m未滿	0.5m ~ 1.0m未滿
1.0m ~ 2.0m未滿	2.0m ~ 3.0m未滿
3.0m ~ 4.0m未滿	4.0m ~ 5.0m未滿
5.0m以上	

時間雨量80mm (1/100年)